令和６年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。）

県南会場

科目　①障害児の支援　インクルーシブマインド　～今必要なインクルーシブ教育とは～

◆　他人との関わり方で、相手にストレスを与えたり、トラウマを経験させたりしたことが自分にもあるということに気づかされました。今日の野内教授のお話を聞いて、これまでの自分を振り返ると、恥ずかしさでいっぱいです。幼子だったらどんな思いで私の言葉を受け止めていたのか、タイムリープして、謝らずにはいられません。「ぽかぽか言葉を使い、ちくちく言葉は使わない」と自分の心に刻み、相手が笑顔で話を聞けるように努めていきたいです。

◆　支援員になり１０年、様々な研修でインクルーシブマインドという言葉を聞きましたが、今回の研修で、具体的に話を聞くことができ、もっと勉強したいと思うようになりました。子どもがツライ時は話を聞き、たくさん話をして、最後に見せていただいた動画のような子どもたちの笑顔を作れるように、支援員としてもっと勉強して子どもたちと関わっていきたいと思います。とても勉強になりました。

◆　最後に先生が言われた「こどもたち全員が笑顔で過ごせることが一番大切」という言葉が印象に残りました。日本のインクルーシブ教育のあり方は物質的な環境や法的な規定を整えることに焦点が当てられて、インクルーシブマインドの育成があいまいになっているとのこと。世界では「自己理解」を重要な要素としている国が多いことに興味を持ちました。勤務している学童でも、子どもたちが自分自身を価値ある存在と認識して、自分の可能性を発揮できるよう支援していきたいと思いました。

◆　子どもや保護者から相談されたとき、自分の考えと別の支援員さんの考えや対応が違うときがあります。今日の研修で、自分自身のトラウマを振り返ってみました。改めて、価値観や他人の感情を理解したり共有したりする力が必要であることが分かりました。毎日子どもたちと接し穏やかに生活しているものの、何かあったとき、適切にアドバイスできるように支援員同士声を掛け合い、放課後の居場所を居心地のいい場所にしていきたいと思います。

◆　この講義を受けて「みんな違ってみんないい」という詩の一節が思い浮かびました。一人ひとりが違うからこそ価値ある存在なのだということなのではないでしょうか。他者を認める心を育てるには、自己肯定感が必要だとありましたが、注意すべきことは口にしても、良いことはどこか「出来て当たり前」になってしまっていたように思い、些細なことでも、良いことは口にして認め、子どもが自身を認めるとともに、周りの人も認められる心を育めたらと思います。